

# 仕様書

## 1 事業目的

一般社団法人四国ツーリズム創造機構（以下、「当機構」という。）では、新型コロナウイルスの感染拡大を契機とした「密」回避のための地方志向、IT技術を活用したテレワークによる働き方の多様化などの動きを捉え、旅先などで休暇を取りながらテレワークする「ワーケーション」の促進により四国全域への誘客と地方移住の拡大にも結び付けることを目的に、「四国周遊型ワーケーション推進協議会」（以下、「協議会」という。）を2021年1月に設立した。

「周遊型ワーケーションの推進」をテーマとしたのは、ワーケーションによる「長期滞在型ツアーの消費拡大」は全国各地の地方自治体（和歌山県や北海道など）が目指している中で、四国観光として定着しているお遍路文化や、サイクリング環境の整備など、四国らしさを強調することで、ターゲット象の明確化やそれに伴う地域アクティビティの拡充方針などを立てることができ、他地域との差別化を目指すためである。

しかしながら、長期滞在型ツアー及びワーケーションを取り巻く社会環境は、まだまだ課題も多く、特に受け入れ側（観光事業者、宿泊施設、地元行政など）と利用者側（旅行者側）の「ワーケーション」に対する定義・意識のギャップが、適切な議論が進まない大きな要因となっている。

そこで本事業では、四国の国立および国定公園の自然を活かしながら、お遍路をはじめとする四国ならではの固有の魅力・要素を取り込み、長期滞在型ツアー及びワーケーションでの誘客を促進するための事業方針策定と調査分析、戦略立案と、四国の各地域において長期滞在型ツアー及びワーケーションを積極的に受け入れる機運醸成を目的としている。

## 2 業務名称

国立・国定公園を活用した四国を周遊する長期滞在型ツアー推進事業

## 3 委託業務の内容

### （１）事業計画の策定支援

協議会メンバーと連携し、本事業のゴール及びターゲットの設定、協議会メンバーの各地域の課題抽出、メンバー内での長期滞在型ツアー及びワーケーション定義の共通認識化などを行うワークショップを開催する。

特に「長期滞在型ツアー」の受け入れ環境整備として、地域のアドベンチャーツーリズム、サステナブルツーリズムとどのように連携するかを念頭においたワークショップとするため、受託者が過去に四国内及び四国以外の地域において実施したワーケーションに関する調査事例、国立・国定公園における長期滞在コンテンツの造成事例、などを提供すること。

### （２）長期滞在型ツアー及びワーケーションに対する企業受け入れ態勢の現地調査分析

以下のエリアを中心に、国立、国定公園内での長期滞在が可能な宿泊施設のハード・ソフト面の受け入れ体制、地域コンテンツの対応力など長期滞在型ツアー及びワーケーションを受け入れることが

できるかどうかの現地調査を行うこと。

瀬戸内海国立公園・・・小豆島エリア

剣山国立公園・・・徳島県三好市エリア

室戸阿南海岸国立公園・・・阿南市エリア

足摺宇和海国立公園・・・土佐清水・足摺岬周辺エリア

石鎚国立公園・・・石鎚山エリア

現地調査にあたっては、環境省・国立公園満喫プロジェクトの成果を取り入れつつ、受託者がこれまでに他の国立公園で実施した調査事例、ファムトリップなどで得られた成果を加味した調査を行うこと。

### (3) ファムトリップの企画・実施

現地調査及びワークショップの結果を踏まえ、ファムトリップの実施方針を策定し、複数の国立・国立公園地域を周遊しながら、長期滞在しその地域コンテンツを楽しむことと、リモートワークをいかに両立できるかを意識したファムトリップコースを2コース企画提案すること。

企画提案時に「企画の際にどのようなポイントを中心にすべきか」、ファムトリップに適切な被招請者、コース、時期などを提案すること。

事業を広く周知し、関係者の関心を高め、多数の応募を集めること。その中で特に継続的な実施に強い関心のある応募者を選定し、事業期間にファムトリップを催行すること。

ファムトリップは、2コースで異なる季節にそれぞれ2回実施すること。その際、季節に合わせてコースの内容を調整するものとする。

また、ファムトリップ参加者に対し、アンケートの実施・分析をすること。なお、アンケート実施にあたり、有効なアンケート案を企画提案すること。さらに、参加者がファムトリップ実施前、実施後でどのような効果（リラックス度、ストレス度など）があったか検証できる仕組みを企画提案すること。

### (4) ファムトリップ実施のフィードバック、意見交換会の実施

ファムトリップ終了後に参加者や地域関係者などを交えたフィードバックミーティングを実施する。企画提案時に、どのような実施内容が適切・効果的か示すこと。

### (5) 次年度以降の戦略策定

上記の現地調査、ファムトリップ、意見交換会を踏まえて、次年度以降の戦略策定を行うこと。

戦略設計の際には、受託者が四国並びに他地域で実施したワーケーションに関する事業等も踏まえ策定すること。

## 4 その他留意事項

(1) 事業実施中は当機構の指示に従うこと。また適切な助言を行うこと。

(2) 評価指標

- ・関係者によるワークショップの開催回数 3回以上
- ・現地調査箇所 5か所程度
- ・企画するファムトリップコース案
- ・実施するファムトリップ
- ・ファムトリップ応募者数 関西圏・関東圏などから100名程度×2回
- ・ファムトリップ参加者数 1コース1回あたり12名程度